

西区教育研究会

1 研究主題 「自ら学びをつくり、広げ、生き方を創造しながら自己実現できる子どもをめざして」

2 研究主題について

西区は、各学校・研究部がそれぞれの研究テーマにそって積極的に研究を推進している。子どもが主体的に学ぶ授業づくり、豊かなかかわりや表現力の育み方、個に応じた指導と評価など、教科等の特性を生かした取組について実践研究を重ねてきた。新学習指導要領においても、子どもの生きる力を育むことをめざし、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開することが各学校に求められている。以上をふまえ、「自ら学びをつくり、広げ、生き方を創造しながら自己実現できる子ども」を育むため、本研究主題を設定した。

3 研究方法

集合型の研究会では、1校1名の参加を基本として運営した。講演会や研修会、実技研の場合は、複数の参加を可としたが、あらかじめ参加人数を確認したり、会場の広さや座席配置に気を付けたり、常に感染症対策を意識して行うことができた。

また、多くの研究部でZoomなどを使ってオンライン研究会を開催した。

4 年間活動(事業)報告特色ある研究活動

- ・西区小教研企画委員会 第1回 8月に書面提案
第2回 3月に書面提案

- ・西区・中区授業を伴う研究会

10月 B研 授業校中区

※集合開催から、11月に延期し、集合開催、あるいは、オンライン開催・
事前に授業を動画撮影し、視聴して協議会を行った。

1月 A研 授業校西区

※集合開催からオンライン開催に、開催方法を変更
事前に動画撮影したものを視聴して、協議会を行った。

<特色ある研究活動>

国語……………指導主事による研修会、デジタル教科書の活用法、実践提案

算数……………指導主事による研修会 実践提案（4回）

理科……………指導主事による研修会、実践提案

音楽……………実践提案、校内音楽会等の情報交換

図画工作………巡回展実施(2グループに分け、期間を短縮)、アートカードの実技研（紙面）

5 研究の成果と課題

コロナ禍ではあったが、各学校及び研究部会においてそれぞれのテーマのもと実践研究を重ね、教師の授業力向上が図られるとともに、本研究会の研究主題に迫ることができた。同時に、コロナ禍だからこそ、研究主題を見直し、その本質が何であるか、どのような方法なら主題の達成に迫る授業や実践をすることができるのか、向き合うことができた。

禍中において、開催の主がZoomを活用してのオンラインや、ハイブリッドでの開催が定着しつ

つある。資料を画面で共有したり、移動時間を別の業務に当てたり等の利便性から、今後も繁忙期や内容によってオンラインやハイブリッドの開催を取り入れていきたい。

たとえ、集合開催であっても、人数が制限されているため、提案者においては、研究会参加者が少なく、還元されるものが少なかったと残念な声も聞かれた。例年のように研究を深められたか、私たちの学びを深められたか疑問が残った。

学びを豊かにすることや研究を深めることと、働き方改革は、かける時間に相反するところがある。だからこそ、各学校で今できる実現可能なことを見出し、そして且つ、効果が高く、持続可能な研究のあり方を探っていきたい。

1月に西・中区合同授業を伴う授業研究会が行われた。集合開催で準備を進めていたが、オンライン開催に変更された。オンライン化が授業校で行えるか等、授業校と研究部会で授業研究会を成立させるためのやり取りがされた。加えて、同時並行で、変更について、早急に各校の参加者へ通知しなければならず、ましてや、西区・中区、区をまたいで開催なので、中区の各学校、および、参加者へ周知されるのにタイムラグがあった。また、個人情報保護の観点から Google ドライブで動画視聴をするために、アカウントを登録してもらう等の行程もあった。当日の朝、やっと変更の案内を知った等の参加者もいた。各学校と研究部会の努力と協力でなんとか開催された。授業者においては、かけた時間のわりに、子どもを見てもらうことができない寂しさを感じざるを得なかった。これらのことから、区としても、判断基準を早いうちに明確にしておきたい。

来年度は、集合開催とオンライン開催の両方の利点を活用することで研究会の一層の充実を図ることができると思う。そのために、年度当初から、区校長会や区内各研究部会、研究部会内の部員やもちろんは、中区との連携も図り、本年度の反省を生かし、持続可能な研究会の体制を整えていきたい。